

RSウイルスワクチン開発の現状とグローバルサーベイランスについて (IASR)

RSVワクチン開発の現状

- 近年、世界保健機関（WHO）においてもRSVワクチン開発の議論が高まっており、2015年からワクチン開発に関する会議が開催され、報告書がVaccine誌に発表されている。WHOのワクチン戦略としては、移行抗体による新生児の防護を目的とした母子免疫ワクチン、小児用ワクチン、60歳ないし65歳以上を目的とした高齢者向けワクチン、および流行期前に1回接種で効果のある改良型Palivizumabの開発を目指し、ライフステージにおける3回のワクチン接種と抗体医薬をもって、RSVの感染制御を目論んでいる。